令和５年６月　定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時　令和５年６月２日（金）午前１１時００分～１１時４５分
場所　市役所２階　第３委員会室
出席　市政記者クラブ７社　１１名

会見内容

１．話題提供（２項目）

１　花蓮市訪問団の来釧について

■　はじめに、「花蓮市訪問団の来釧について」です。
■　台湾の花蓮市との交流については、台北駐日経済文化代表処　札幌分処の粘分処長からご提案頂いたことを契機に、友好交流協定を令和４年８月３１日に締結いたしまして、令和５年１月に私と教育長をはじめ、議会など関係者の方々と訪問させていただきました。
■　今回は、花蓮市の魏嘉彦市長をはじめとした花蓮市の市役所職員などの訪問団が６月７日から１３日までの日程で来日し、道内各地を視察するということで、釧路市には、６月９日から１０日の２日間滞在するものでございます。
■　市内では、丹頂鶴自然公園や阿寒湖アイヌシアター「イコロ」などを視察いただくほか、市役所にも来訪する予定であります。
■　今後は、両市の関係をさらに深めていきながら、お互いの繁栄と発展をしっかり進めていきます。
■　花蓮市は、観光地ということもあり、共通部分も極めて多いところでございます。協定の中で、文化・芸術・スポーツ・観光など様々な分野で交流していくこととしているところです。
■　あわせまして、釧路市は台北市立動物園と動物園同士で協定を結び、タンチョウやマリモも台湾に行っているところです。また、先だっては、石炭の関係として、台湾炭鉱博物館との協定も結んでいます。令和５年の秋には、釧路北陽高等学校の教育旅行も実施できるものと考えております。
■　このような形の中で、しっかりと関係を深め、次世代に繋げていきながら、この交流を深めていきたいと考えているものでございます。

２ フジドリームエアラインズによるチャーター便の運航について

■　続きまして、フジドリームエアラインズによるチャーター便の運航についてであります。
■　８月１５日から８月２４日の期間で、計２９便のチャーター便が運航するものでございます。
■　運航のスケジュールにつきましては、お手元の資料をご覧いただきたいと思います。
■　これは、旅行会社が企画型旅行商品を造成・集客して運航するチャーター便というものでありまして、過去にも実施されたことがある仕組みでございます。
■　市としましては、初便到着に合わせて、釧路空港にて歓迎の行事を行うほか、搭乗されたお客様に、１階ロビーで観光パンフレットや記念品を配布いたします。
■　このようなチャーター便を通して、釧路の「夏の涼しさ」などをしっかりと PR していくとともに、新たなアドベンチャートラベルも含めた、観光・自然体験・食の魅力など、ここでなくてはという部分を発信していければと考えております。

２．質疑要旨
（質問）
・花蓮市の訪問団について、何名の方が来られますか。
（交流推進主幹）
・１１名です。
（質問）
・当初５月に来られると聞いていましたが、ずれ込んだ理由はありますか。
（市長）
・早く行きたいというお話をいただいていましたが、選挙や議会、会議などで日程が合わず、双方の都合の合う日で決まりました。
（質問）
・市役所に来られると説明にありましたが、日時はいつになりますか。
（交流推進主幹）
・９日の１５時３０分です。
（市長）
・市役所訪問の際は、粘処長もいらっしゃると伺っています。
（質問）
・今回は釧路市が訪問した後に花蓮市が訪問することになりましたが、今後も定期的に交流する考えはお持ちですか。
（市長）
・台湾とは、花蓮市とこういった協定を結ばせていただき、合わせて台北市の文山区ともずっと交流を進めていますことから、全体で進めていければと思っています。台北市文山区とは、教育の連携もありますし、台中ライオンズクラブと幣舞ライオンズクラブの関係など非常にいろいろな所と関係がありますので、台湾を訪問した際は、文山区から花蓮市を周るなどの形で進めていきたいと思っています。また、定期的にというよりは、これまでと同じように進めていきたいと考えています。
（質問）
・台湾は先住民族の政策が進展していますが、今回来られる１１名に先住民族関係の方はいらっしゃいますか。また、訪問先に阿寒湖のアイヌシアターが入っていますが、先住民族の交流はありますか。
（交流推進主幹）
・役所の方ですが、原住民対策課長がいらっしゃいます。
（市長）
・台湾は先住民族を敬う文化があり、これまでも阿寒湖を行き来しておりました。改めてということではなく、これまで継続的に行って来たことをしっかり深めていければという考えです。

（質問）
・フジドリームエアラインズについて、幅広い地域から釧路に来ていただく機会になると思いますが、具体的に来ていただいた方にどのようにアプローチするのですか。単にパンフレットを配るだけではなく、釧路らしいアプローチも必要と思いますが検討されているものはありますか。
（観光開発主幹）
・パッケージ商品となっており、インターネット等を通じ各旅行会社で販売されているものになります。旅行会社が釧路の各地を周るメニューを組んでいますので、市側で場所を決めることができない状況となっています。

（市長）
・クルーズ船ですと、到着した方が参加する様々なツアーがあり、そのツアーに参加していない方に色々なアプローチがありますが、今回は企画型商品です。これまでも、フジドリームエアラインズや企画会社には情報を発信しており、その中で選択されているものですので、来た方というよりはその前段でアプローチをしています。
（質問）
・Ｐｅａｃｈの季節運航という話もあり、チャーター便といっても釧路と全国がつながる大きな機会だと思います。ＦＤＡやＰｅａｃｈなどチャーター便を含め誘致を進めていく考えはありますか。
（市長）
・基本は定期便になります。私どもは路線を確保していくという考えです。スポット的なチャーター便も良い形だと思っていますが、ベースは定期航路です。コロナ禍できびしい環境の中、Ｐｅａｃｈも機材をどうするかということで減便になりましたが、そこについては復活というお話もさせていただいています。また、色々な所にお声がけをしながら進めていければと思っています。
（質問）
・２９便来るということですが、何名の方が来られる予定ですか。
（観光開発主幹）
・機材は７６名乗りと８４名乗りを使います。人数についてはまだわかりません。
（市長）
・ざっくりと８０名に便数を乗じた内の何割かになります。
（質問）
・コロナの水際対策も緩和され、国際便の運航についても考えていかれますか。
（市長）
・昔は台湾との定期便も１年半くらい就航いただきました。そういった中で、先ほど報告しました花蓮市や台北との連携などに結びついてくればありがたいなと思っています。そのためには様々な所で情報発信していくことが重要であります。花蓮市は観光地でありますので、様々な方がお見えになられます。そういった中で情報発信することにより、釧路やひがし北海道にも来ていただく機運が出てくるかもしれませんので、そういった方向に向かっていきたいと思っています。
（質問）
・２９便ということですが、資料には２７便、うち１便は帯広になっていますが、釧路に来るのは２６便ということでしょうか。
（観光開発主幹）
・日々便数が増減しており、フジドリームエアラインズからも便数については確定していないと言われています。説明の２９便は５月２５日時点の便数であり、その後減っている状況です。今後も変動がありますので、都度発表したいと思っています。
（質問）
・市長の説明から、以前もチャーター便が運航されていたとのことですが、いつごろでしょうか。
（観光開発主幹）
・前回が２０１３年になり、１０年ぶりになります。
（質問）
・２０１３年も複数の旅行会社が取り扱っていたのですか。
（観光開発主幹）
・旅行会社の数はわかりませんが、２０１１年の時は小牧のみでした。２０１３年は名古屋、

松本、静岡、新潟からの発着で、今回と同様の周遊型となっています。
（質問）
・どこかが音頭を取って、今回は複数の旅行会社がツアーを企画したのですか。
（観光開発主幹）
・今回、釧路市からはアプローチはしておりません。フジドリームエアラインズから情報をいただいたものになります。
（市長）
・私も何度かフジドリームエアラインズに伺い、情報提供はさせていただいております。その中で「涼しい釧路で避暑生活」などいくつか実績が出てきております。そのような状況の中で選定されたものと思っています。これまでの積み重ねの中で結びついたものと考えております。
（質問）
・釧路は年間どのくらいの観光客がいらっしゃるのですか。
（市長）
・コロナで大きく下がりましたが、ピークで５３０万人くらいです。昔は２００万人くらいでしたが、釧路湿原が国立公園になった時に一気に倍に増加し、その後フェリーの廃止や飛行機の自由化など色々ありましたが、一定の数字を確保してまいりました。細かい数字は後ほどデータでお示しできます。

（質問）
・アイスホッケーについて、ファンにとってはどうなっていくのかと戸惑いがあると思いますが、市長としての受け止めと、両チームに対しての連携について考えていることはありますか。
（市長）
・氷都釧路としてのアイスホッケーは、日本製紙クレインズ時代より何とか地元の中にチームをと進めてきましただけに、コロナもありましたが、経営の問題が出てきたことは非常に残念な状況だと感じています。このような中でも、できる限りのバックアップを行ってきましたことから、率直に切ない状況であります。
ベースとなるのは選手と考えており、選手一人ひとりをバックアップしていこうという中でのチーム存続へのバックアップでありました。それ故に何とか形になっていただきたいと思っています。このような状況ですので、支援を止めているところですが、選手の方々がアイスホッケーに打ち込んで、ひがし北海道のファンの方々の期待に応える活躍ができる環境を作っていただいて、そこにまたしっかりバックアップしていければと考えているところでございます。
ですから、新しいチームに私どもから何かお話をしているということはありません。ひがし北海道クレインズには色々な場面でお会いしますので、状況についてお話を伺うことはありますけれども、具体的なお話はいただけていない状況です。
（質問）
・クレインズとはやり取りをしている状況ということですか。
（スポーツ課長）
・やり取りということではありませんが、報道に出たことの事実確認や遅配の状況を都度確認しているところです。
（質問）
・選手が一番大事ということで、選手も家族を養っていかなければならないですが、選手に対して具体的なことは考えていますか。
（市長）

・選手が少しでも良い環境の中で活動できるように、チームをサポートしてきたところです。そういった意味では、今後どうなっていくのか注視しているところです。思いとしては、選手が憂いなくプレーをできる環境を作っていきたいと考えていますので、何とか早く方向性が出てほしいと思っています。

（質問）

・現状として、チーム名が変わってしまう可能性もありますが、これに対して市長の思いはありますか。

（市長）

・クレインズという名前は親しんだものではありますし、今のユニフォームも阿寒の西田香代子さんにデザインしていただいたものであります。そういった一つ一つの積み重ねてきたことや思いを重く感じているところです。
名前のこともありますが、やはり選手たちにあこがれて小さなころから頑張っている子供たちがいますので、選手の方々がしっかりパフォーマンスを発揮し、子供たちに夢や希望を与える環境を作っていくことが重要ですので、優先すべきはそのことだと考えております。

（質問）

・昨年度は企業版ふるさと納税を通じて支援されたり、施設の減免など色々バックアップされたと思いますが、２つの団体の問題が片付くまでは、支援は行えないものですか。

（市長）

・今は状況を注視しているところでございます。それほど時間がかからず方向性が出されるものと期待しているところです。その中でアイスホッケー連盟も含め地元の皆様と相談しながら、しっかりとした支援をしていきたいと思っています。
今の段階では支援できる環境になっていないということです。

（質問）

・３月末に支所を閉鎖し、代わりにマルチコピー機や相談用タブレットを設置しましたが、利用状況を教えてください。

（主幹）

・市で設置したマルチコピー機の発行数は４月分で１６６通の証明書が発行されております。それに対し、コンビニ交付全体では、２，８７２通の証明書が発行されており、前年同月（令和４年４月）と比べて、２．４倍増加しています。

（質問）

・１６６通はマルチコピー機７台の合計になりますか。

（主幹）

・その通りです。

（質問）

・リモート相談は何件ありましたか。

（主幹）

・コアかがやきで６件です。

（質問）

・リモート相談用のタブレットは何台ありますか。

（主幹）

・各コミュニティセンターに設置していますので、３台になります。

（質問）

・６件の相談内容はどのようなものですか。

（主幹）
・証明書の発行に関することが主で、その他マイナンバーに関することです。
（質問）
・地域の困りごと相談はありませんでしたか。
（主幹）
・今のところありません。
（質問）
・この数字を踏まえて、支所廃止の際に相談ができなくなるという不安の声があがっていましたが、使われていたのがコアかがやきだけです。市として今後、リモート相談のＰＲを強化する取り組みは行いますか。
（市長）
・リモートを活用していくことは重要だと思っていますし、その前段として、我々の案内を分かりやすくすることが重要です。情報というものは分かりやすく届けることが必要ですので、アリバイを作るように全てが書いてあるのではなく、的確な情報発信が重要です。そういったことに努めながらしっかりとわかりやすい通知の仕方に取り組んでまいりたいと考えています。
市役所に来なくても相談できる体制を整備していくことは必要だと思っており、利用を促すことではなく、そういった機能があるということが重要だと思っています。
（質問）
・７台のマルチコピー機で１６６件の数字はどのように感じていますか。
（市長）
・重要なのは機能をどう持つかであると思っています。今まではコンビニ交付を進めてきた中で、支所廃止がありました。色々なご意見がある中で、そういった機能を持って、利便性を確保していきましょうと進めてきました。今後どのようになっていくのかを見ていきながら、市民の利便性を確保し、効率の良い手法を考えていくベースとなる数字と思っています。
（質問）
・前年同比でコンビニ交付が２．４倍になったということですから、市としてはＤＸをさらに推進して行くという考えですか。
（市長）
・デジタルトランスフォーメーションは大きなキーワードになっていますけれども、いろんな意味で利便性が増してくるものと考えていますので、進めていければと思っています。今出ている課題については、しっかりと国にも対応いただきたいと考えています。

（質問）
・釧路の精神科医療について、市内で診療の停止や縮小が続いており、逼迫した状況になっています。釧路市では４月から精神科医を対象にした開業資金の補助制度を新設されていますが、今後医師確保に向けて、国や北海道への働きかけなど何か新たな対応はありますか。
（市長）
・ご質問のとおり精神科の問題が顕著に出ています。５月２４日に釧路保健所が主催する会議が開催されまして、保健所を中心としながら医師会ともどのように行っていくか進めているところです。まずは患者の受け入れ先の調整からスタートしたところですが、色々相談しながら進めていくことが必要だと思っています。
開業資金の補助制度を出しているところであり、相談の状況は担当課より説明します。

（健康推進課長）
・市内の医療機関から２件寄せられています。
（市長）
・まずは、医師がいないとできないものでありますので、この課題をクリアしていきたいと取り組んでいるところであります。